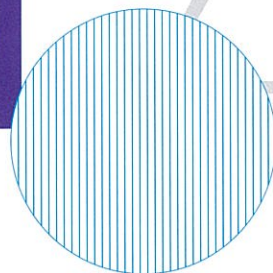


NAGAKUTE

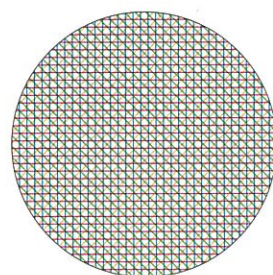
VISION



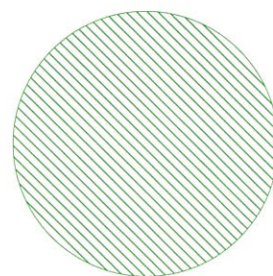
愛知淑徳大学



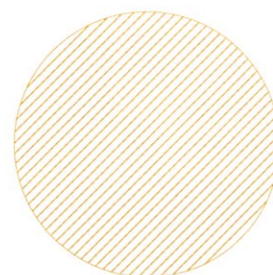
愛知医科大学



長久手市



愛知県立芸術大学



愛知県立大学

長久手市大学連携推進ビジョン 4U ワーキング
2018年度 2019年度
活動レポート

この事業は、長久手市と市内4大学が連携し、社会貢献・教育活動支援・研究推進・拠点整備の4つのビジョンに基づく取り組みを行っています。
2018年度からの2年間は、大学それぞれの特色を活かしたワーキングを、キャンパス内へ他大学の学生、市民を招く形で行い、
この連携ならではの良さを活かし合う可能性を探りました。

2018年度4Uワーキング報告

学生まちづくりののろしを上げろ! のろし祭り

2018|9|29 日 |16:00~18:30

イオンモール長久手 イオンホール

内容

2017年度ビジョン4Uの締めくくりとして行われた「コラボ!逆指名大会」で、学生が地域課題の解決として提案した企画を、実践、発表し合う機会として開催しました。子どもたちを地域の方々が見守ることで家族のような関係を育む「はじめてのおつかい」や、防災時の対応を身近に考える「災害食の炊き出し、試食」、応急手当の方法を学生が伝える「救命救急コーナー「使ってみようAED」」、さらにタイトルにもある、ほら貝を吹き、のろしをあげる「みんなでのろしをあげよう」など、市民参加型のお祭りとして実施しました。最後は、しょうがいを持つ方とともに踊る「ウゴクカラダ」の創作ダンスで会場全員が踊って終わる、熱気に満ちた一日になりました。参加者から「学生の力がまちづくりに活かせることが実感できました」という嬉しいコメントが寄せられました。



参加団体

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター/
愛知医科大学AMULET/愛知県立芸術大学チームのろし/
愛知県立大学DoNabenet inあいち/ウゴクカラダ/ものがたりラボ

4大学合同第1回ワーキング 「地域の歴史を読み、町並み保存を考える」

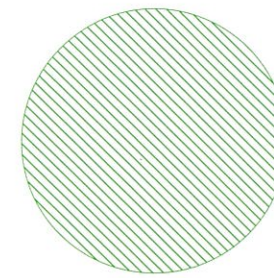
2018|11|17 日 |13:00~16:00

長久手市役所西庁舎3階・旧岩作街道周辺

内容

古地図や絵図等の資料を持って現地を歩き歴史の痕跡を観察し、フィールドワークを通して、歴史的な町並みをいかに保存し活用するかを考えました。
地図を使いながら、長久手市の地形と地名、歴史を確認し、現在の地図と、古地図を見比べながらグループに分かれて旧岩作街道周辺散

策しました。
参加した学生(愛知県立大学の留学生を含む)と市民の方が長久手市の歴史と町並みを改めて知る機会となりました。
講師:服部亜由未(愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科准教授)



4大学合同第2回ワーキング 「参加・体験のデザイン」

2018|12|22 日 |14:00~16:00

愛知県立芸術大学講義棟第1講義室、学生会館前

内容

学生が制作した様々な参加・体験型の作品を紹介し、実際の体験を通して、アートやデザインの地域に果たす役割について考えました。
「ほら貝+のろしパフォーマンス」「おむすびころりん」
「タンポポダンス」「人間サンドイッチ」「葉脈占いセミナー」
「ルルル族」「クリオネのネネ」

講師:石井晴雄(愛知県立芸術大学美術学部教授)
宮崎喜一(ART&LIFE自然学校代表)
名川敬子(子ども絵画造形教室 アトリエ・フラワーチャイルド代表)

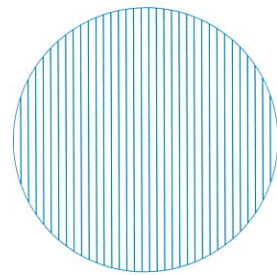
参加者の声

- ・ワークショップを進めていく中で、参加者が一体になっていく感覚を味わうことができた。
- ・見るだけでなく体を動かすもので、新鮮だったとしても楽しかった。
- ・こうしたデザインには、新しいものを生み出す発想力が必要だと感じ、様々なところで求められる力だと思った。
- ・みんな和気あいあいと楽しんでいる様子で、アートやデザインがもたらす効果を感じることができた。
- ・普段の勉強は机に向かっての勉強ばかりで、知らず知らずのうちに自分の考え方が凝り固まっていたように思った。童心に戻って純粋に楽しむことができ、いい刺激になった。
- ・普段はしないような体験をして、友人と笑いあったことで少し距離が近づき、いつもより気楽に、素の自分で話すことができたため、社会のコミュニケーションのためのデザインとはこういうことなのか、と初めて知る考え方を身をもって経験することができた。
- ・まさか大学生になって、芝生の上に横になり、坂を転がるとは……思ってもいなかった。しかし、転がってみると何か吹っ切れたような気がして、その後の作品に知らず知らずの内に夢中になって参加している自分がいた。まさに、社会的なヘルソナから解放されたような気がした。芸術の不思議で偉大な力を感じ、素敵な時間を過ごすことができた。



- ・他大学の授業を体験する機会なんてなかなか無いし、特に芸術大学はどういう授業をしているのか全く想像もつかないので、見るもの・体験するもの全てが新鮮な楽しい1日だった。
- ・性別も、年齢も、立場も、本当に色々な人が参加していたけれど、校舎の外に出て自然の中で体を動かすことで、みんな自然と笑顔になって一体感が生まれていた。とても素敵な空間だったと感じた。
- ・今回のこのようなイベントを通して、お互いが得意なことを共有しあって、それらを集めて1つの大きな何かを成し遂げることができたら、とても素敵だなと思った。
- ・芸大の講義を肌で体感して、その楽しさや可能性を知れたことで、今後何かをするときの1つの引き出しとして大きな意味を持つのではないかと感じた。
- ・芸大の学生さんの企画を大学内で、子どもも大人も学生もごちゃ混ぜになって体験出来たことが、自分にとって非日常感があって面白かった。また、大学という場がたまには学生ための場所ではなくて、長久手市民の人たちと学生をつなぐ交流の場にもなれるような大学の場所としての活用を感じられる回だった。まちづくりを普段自分が学んでいる社会福祉とは違う視点での取り組みを学べて、いろんな方法があるのだと勉強になった。





4大学合同第3回ワーキング 「学生に学ぶ救急蘇生法」

2019|1|30 日 | 16:20~17:20 |

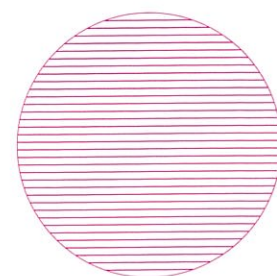
愛知医科大学医学部シミュレーションセンター（C棟6階）

内容

医学部で救急蘇生法を学んだ大学生が、市民・学生・大学関係者にAEDを用いた蘇生法の講習を行いました。
講師:川原千香子(愛知医科大学医学部シミュレーションセンター講師)
愛知医科大学医学部学生

参加者の声

・医大の学生にとっては、学んだ知識を講習によって再確認できる良い機会となった。
・医学部では、模擬患者を活用して医学専門知識を持たない一般の人とのコミュニケーション法を学ぶカリキュラムもある。今回は一般の立場の人にわかりやすく話すトレーニングの場としても良い機会となった。
・平日の開催となったことで、他の連携大学での行事等と重なってしまい、学生の参加者が少数に止まった。他の連携大学からの学生に参加してもらえる日程を考慮する必要がある。



4大学合同第4回ワーキング CCCフォーラム「学生と地域のつながるまち」

2019|2|16 日 | 13:00~15:00 |

愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター

内容

長久手市で活動する市民団体、ボランティア団体と各大学生が集まり、個人・団体の交流をすることで、これまでの活動を認め合い、これからのつながりへと活かすことを目的としたワークショップを実施しました。活動における個人の想いや、学生がインタビューする形での各団体の活動内容の共有することで、長久手での暮らしやすさを、たくさんの市民が作り出し、そして学生との交流や協働への期待が高いことなどを、参加された一人ひとりの声から改めて知ることとなり有意義な会となりました。
講師:沖直子(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター常勤講師)

参加者の声

〈地域の方から〉

・学生・若者が地域活動に関心を持っていること、参加者の多さに驚きました。
・学生とボランティアの横の繋がりがこんなに盛会になるとは…。事務局の御苦労に感謝。
・想像以上に楽しい時間でした。何度かこういう機会があると嬉しいです。
・学生と地域活動や他大学の横のつながりができるイベントは凄くよかったです。お互いの刺激になる。学生が地域を意識するきっかけとなり、1人でも多く地域に根差して活動してもらえたらと思います。
・大学が中心となり、若い方々の地域のあり方を学習し、まちづくりの方向性を切り開いて行くことは、日本の将来に光明が差し込んで来た様に思います。

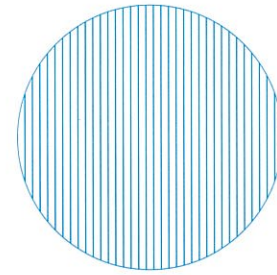
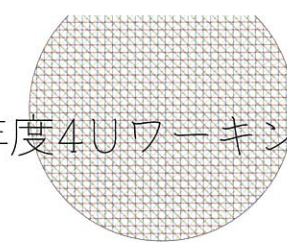
〈学生から〉

・今まで知らなかった活動を主催する方の「想い」を学ぶことができた。



・CCCでアンテナを張っているつもりだったが、まだまだ知らない活動があった。もっといろいろな活動を知りたいと思った。
・普段なかなかお話を聞く機会がないので、貴重な時間になりました!
〈ビジョン4Uへの期待やご希望〉
・多くの他分野の学生同士が会える場を継続的に提供してほしい。
・それぞれの大学に特徴があるので、当番的にやることは大切だと思います。
・もっと短いスパンで開催すべきだと思います。
・堅苦しくなく、ラフに交流できる場づくりを。
・もっと各大学の中で全体に浸透するようになるといいなと思います。
・もっともっと魅力ある町づくりをしたい、つくってほしい、つくりたい!

2019年度4Uワーキング報告



4大学合同第1回ワーキング 「やってみようトリアージ 学生としてできること」

2019|10|19 日 | 13:00~16:00 |

愛知医科大学医学部シミュレーションセンター（C棟6階）

内容

この近隣が大雨や地震の被害にあったら、各大学には、多くの人が残され、近隣住民の方々も集まってくることが予想されます。大規模災害等で多数の人が負傷した場合、患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定・選別するトリアージを知ってもらうことで、医療従事者不在時でも、危険な状態なのかどうか考えることができます。

医学生、看護学生が指導者となり、皆さんにそれぞれ「傷病者役」「トリアージするチーム役」を体験してもらいました。大きな声の出ない人、倒れていて気付かれない人の方が実は緊急性が高いこと、迅速な判断が求められることを共有できました。
今後も、医科大学としてできることをテーマとし、市民も参加しやすいような日時、場所、内容を提供したいと思います。

講師:川原千香子(愛知医科大学医学部シミュレーションセンター講師)
愛知医科大学医学部、看護学部学生

参加者の声

傷病者役をやってみて、とても不安な気持ちを実感した。自分たちでできることが1つでもあればやりたいと思う。



公開授業 学生に学ぶ救急蘇生法

2018年度のワーキングのテーマだった、「学生に学ぶ救急蘇生法」を、今年度は公開授業として年3回実施しました。長久手市のお知らせを見て、参加してくださった、市民の方もいらっしゃったため、今後も継続していく予定です。

愛知医科大学医学部公開授業 学生に学ぶ救急蘇生法

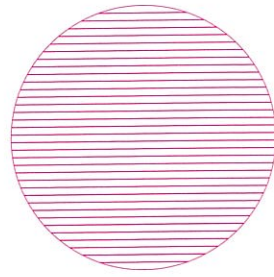
短い時間で、基本的な技能が身につきます。医学を学ぶ学生たちにも聞いてみませんか?

日時:2019年12月11日(水)
16時10分~17時20分
場所:愛知医科大学
C棟6階
シミュレーションセンター



愛知医科大学





4大学合同第2回ワーキング 「学生発、まちを楽しく作るつながり」

2019|11|16 日 | 13:00~15:00 |

愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター

内容

長久手市で活躍する学生団体×市民団×行政の横断交流を目的として、ワークショップ(WS)形式で開催しました。集まりつなぐことで、地域を豊かにしている方々の思いと価値観を共有できるようにと、内容は「ファシリテーター養成講座」受講学生が考え、当日の進行も担いました。

参加者は65人、まずは各学生団体から長久手市でどんな活動をしているのかを発表してもらい、そのあと世代や大学、団体を越えた交流ができるよう小グループの中で、自己紹介をし合い、20代~80代と書かれた紙をくじで引き、自分がその〇歳代だったらどんなまちに暮らしたいか?などを想像して答えることで、地域の多様性と理想のまちを共有し、そのあと、実際に今の自身の地域活動や、または未経験の今を開示し合う手づくりの「まちづくりコミュニケーションカード」を使って対話しました。「地域活動を始めたきっかけは」「活動していて一番嬉しかったことは」などの問いから話が広がり「今度イベントにおいて」「一度活動の様子を見せてください」など具体的なアクションへとつながる対話へと発展していきました。また、自分の団体の課題を明らかにすることでアドバイスをもらうことが出来、モチベーションにつながるケースもありました。グループの中では、意見交換の間の沈黙を、想いの醸成時間と尊重するか、話しくさすと判断して口火を切って促すかという、話し合いの場をどう育むか、ファシリテーション的な視点からの意見交換がなされたところもありました。

前回のWSでは市民と学生が出会い協働のきっかけをつくる機会でしたが、今回は、すでに地域活動を展開している団体間交流、そして愛知県立大学の授業学生への一歩目となる機会となりました。大学連携において学生が市民と繋がり、ともにまちをつくるパートナーシップを育むためのプラットフォームづくりを大学が担う価値を実感することが出来、有意義な時間となりました。

講師:沖直子(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター常勤講師)

参加団体

(学生)

ファシクラブ(ファシリテーター担当)・こめ☆こめくらぶ・Na-Gomi・共同料理なごやか・tASUkeai・あつとほーむ・キズナ日和(以上、愛知淑徳大学)/DoNabenet in あいち(愛知県立大学)/ボクラモ(中京大学他)

(地域)

長久手みなみ里山クラブ/丁子田シニアクラブ/ういういの会/長久手市キャラバン・メイト

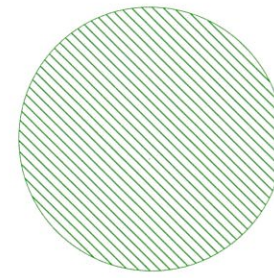
参加者の声

- ・時間が短いけど充実した内容でした。いろいろな方が活動していることを知りました。
- ・実際に活動している人としていない人が交流したことで、活動している人は伝える、していない人は始めるきっかけになったと感じた。
- ・年齢も活動団体も違う方々から色々な話、想いが聞けてとても楽しかったです。
- ・自分が知らない分野で活躍している人たちに会えて素敵でした!
- ・自分たち以外にも数多くの団体があり、それぞれが長久手市のために活動していることを知ることができました。
- ・普段できない話を、様々な立場の方できて、とても勉強になったし、自



分の活動への意欲にもつながりました。

- ・同じ大学生なのに、本当に活発に活動している人たちがたくさんいて驚きました。私にも何かできるんじゃないか。
- ・自分も地域活動に参加してみたいと思いました。
- ・参加して地域の活動にとっても興味が湧きました!!参加して良かったです。
- ・とても刺激になりました。グループワークもいろんな方とコミュニケーションできて良かったです。
- ・淑徳さんがこんなに地域連携活動をしていることを知らなかったのが、驚きました。また、こんなに想いのある人が多くいると知らなかったのが、長久手市は素敵だと思いました。4Uでこんな企画をしてくださってありがとうございます。ボランティアの初めの一歩をどれだけ温かく受け入れていただけるかで第二歩目が決まると感じます。なので、ほんとうに感謝しています。
- ・若い学生さんの意見を聞くことが出来、非常に参考になりました。



4大学合同第3回ワーキング 「デザインとdesign,その違いとは?」

2019|11|30 日 | 14:00~16:00 |

愛知県立芸術大学デザイン棟講義室1

内容

外来語として日本に伝わり、日常生活の中で使用され続けている「デザイン」。しかし「デザインって、カッコいいこと」という認識が定着し、「私、絵が下手だからデザインできない」という言葉をよく耳にします。欧米の「design」はモノの形や見え方だけではなく、使いやすさや解りやすさ、そして安心など、形がない人の気持ちまで「design」の対象となっています。解りやすい事例としてユニバーサルデザインを中心に話を進め、人生も「design」、「みなさんもdesigner」であることを認識していただきました。

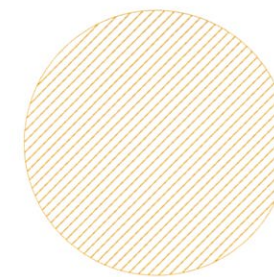
講師:中原道博(愛知県立芸術大学美術学部非常勤講師)
中島聡(愛知県立芸術大学美術学部教授)

参加者の声

- ・ユニバーサルデザインについて、国によってデザインが違うことがとても印象に残った。切符の販売機、ワイパー、ウィンカーの指示の違いなどは、各国の事情が反映されていてとても興味深いものだった。
- ・バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを初めて知った。多くの人にマッチするデザインの活用に関心を持った。
- ・ユニバーサルデザインの鏡について初めて知った。身近なところにユニバーサルデザインが活用されていたことに驚いた。バリアを前提にしたバリアフリーではなく、バリアを作らせないユニバーサルデザインに関心を持った。
- ・より身近にありながらも、気にしないことが多いデザインについて学ぶことができた。アクセシビリティ、ユーザビリティが大切だとわかった。
- ・ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを知らなかったが、初めか



- ら障壁をつくらないというユニバーサルデザインの考えが腑に落ちた。
- ・色覚異常のお話しが印象に残った。信号やサインを色ではなく、○や×を使うことでわかるようになることを教えてもらった。後半のデザインとアートの違いも興味深かった。
- ・デザインとは、相手のことを考える「愛」であるという視点が新鮮だった。デザインと教育はよく似ていると思った。
- ・講義ではモノのデザインに焦点を絞っていたが、目に見えないもののデザインにも考えを発展させることができた。



4大学合同第4回ワーキング 「地域での福祉活動の第一歩」

2019|12|21 日 | 13:30~16:30 |

愛知県立大学長久手キャンパス小ホール、栄養学実験実習室

内容

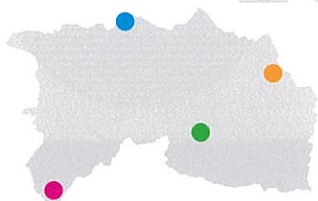
佐野治教授(静岡英和学院大学)による講演「地域における見守り活動をめぐって」のあと、実習室に移動し、防災食の体験学習と災害時のジレンマを考えるグループワークを実施しました。防災食の体験学習では、ポリ袋に食材を入れて湯せんで火を通す「バッククッキング」でカレーを作り、ライフラインが使えなくなった時の防災食としての有効性を学びました。

また、阪神・淡路大震災時の災害対応を基に、防災啓発用に開発されたカードゲーム「クロスロード」を使用し、災害時のジレンマにどう対処するかを話し合いました。

講師:佐野治(静岡英和学院大学教授)
松宮朝(愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科准教授)



NAGAKUTE VISION 4U



長久手市大学連携推進ビジョン4U

長久手市と市内4大学がお互いに連携し、4つのビジョンに基づく取組みを行っています。

ビジョン1

社会貢献

地域社会が抱える課題解決のために「あなたも一歩、みんなと一歩」をめざして、大学生と地域をつなぎます。

ビジョン2

教育活動支援

市内にある4大学の専門性と特色を生かし、地域課題を解決する社会貢献活動につなげるための教育活動を支援します。

ビジョン3

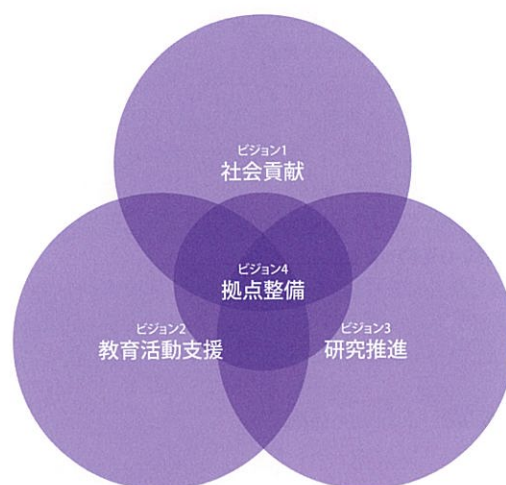
研究推進

大学の教員、大学生の研究を支援し、長久手市の地域の課題解決と活性化を図ります。

ビジョン4

拠点整備

地域、企業、大学と市とが相互に連携するための、地域連携の活動拠点整備を進めます。



長久手市大学連携推進ビジョン4Uワーキング

2018年度2019年度活動レポート

ホームページ nagakutevision4u.com

発行年月 2020年3月

問合せ 長久手市くらし文化部たつせがある課

住所 〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1

TEL 0561-63-1111(代)